（別紙4）　　平成　30　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2172100774		
法人名	社会福祉法人　墨友会		
事業所名	グループホーム　サンヴェール大垣		
所在地	岐阜県大垣市東町４丁目４３－２		
自己評価作成日	平成３０年６月３０日	評価結果市町村受理日	平成30年9月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2172100774-00&PrefCd=21&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町１１０番地
訪問調査日	平成30年8月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当グループホームは5つの事業体（特養他）と併設され、その強みを十分に活かしながら介護・医療のサービスをはじめ行事活動なども連携し支援できる運営体制となっています。ご本人・ご家族とスタッフを含め皆が安心・安全・快適を実感できる生活空間の確保とスタッフ間のきめ細かい情報共有によって孤立感はありません。また、ご利用者は無理なく個々に合わせた自然な流れの日常生活を営まれ、衛生的で落ち着いた環境の暮らしの中で、お互いが触れ合う時間を大切にしながら、ありのままを受け入れた笑顔の絶えないホームが築かれています。また近隣の施設のグループホームとは研修会などを毎年開催して連携を深めています。特に施設内にある喫茶「サンカフェ」や「屋内足湯施設」の利用ではご本人・ご家族・スタッフの気分転換ができ、近隣の方の気軽なご利用も毎日のようにあることから、地域の接点として自然な交流も生まれ、健康増進にも役立ち好評を得ています。施設敷地の共有の畑では野菜・果物の収穫による季節感を楽しんで頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

職員は、利用者一人ひとりの思いを大切にして、その人らしい人生が継続出来る支援に取り組んでいる。利用者のその日の状態や気分をしっかりと観察しながら、無理強いせず常に利用者の居心地よい生活の場となるように努めている。また、家族の面会が多く面会時には積極的に声をかけて、日常の様子を伝え、共に同じ思いで支え合える関係を築くよう取り組んでいる。管理者は、職員出勤時には必ず言葉をかけ、様子から体調・悩み事など気になる時は話を聞いたり、家庭の事情を配慮して勤務調整を行ったりして、働きやすい環境作りに努めている。併設法人の地域交流室・カフェ・足湯を地域に開放し、各種団体が利用し、地域住民も自由に出入りしている。利用者とも馴染みの関係が出来て交流し、地域の人から相談を受ける場ともなっている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念・スローガンは各自が名刺の中に入れ、常に確認できるようにしている。またユニット会議でも振り返り・確認を行っている。グループホーム独自の理念についても分かりやすい場所に貼り、実践につなげている。	入職時、理念について説明している。各自が名札の中に入れ常に携帯して意識付けをしている。月１回のユニット会議、年１回の自己評価で振り返り、理念の実践ができているか確認をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設事業所内のカフェや足湯、地域交流室を地域に開放し、利用者様との交流の場にもなるよう努力を行っている。また管理者が老人会の会合に参加したり、近隣企業の施設見学を積極的に受け入れている。	散歩時に声をかけてもらったり、併設施設内のカフェや足湯などで地域の人と交流している。畑を地域の人に管理してもらい収穫した野菜や果実を事業所で使っている。管理者は地域の会合に参加したり、講話の依頼を受けるなど地域の役割を担っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設施設であることから、施設内事業所、外部事業所との接触機会が多いので努めて連携できるよう心掛けている。また1階サンカフェは直接的な地域窓口として自然な交流を促し、直接・間接的な支援・実践を試みている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回利用者状況・行事など、取り組み事項の内容について報告し、各委員から助言・提案を頂いている。自治会長の協力を仰ぎながら会議により多くの地域の人が気軽に参加して頂ける様に働きかけを行っている。	利用者状況・事業所の取り組み・事故報告を行い、地域の行事案内・衛生上の留意点など意見交換をしている。家族からエアコンの修理について要望があり、他の備品についても同時に点検・修理を行うこととした。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期報告に加え、行事案内の通知を通して連絡・意見交換ができるようにしている。管理者は市に出向き、市町村との関係を良好に保つように努め、近隣グループホームとの交流内容について報告している。	現況報告など定期的な報告の他、近隣のグループホームとの合同研修会や連携についても報告している。管理者は市に出向き、担当者と協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしない方針であり、マニュアルも整備している。併設施設を含めた全事業体で施設内研修やリスクマネージメント委員会からの身体拘束回避の理解、知識習得への取り組みを継続している。	法人の研修会や委員会で身体拘束や虐待について学び身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、ユニット会議で研修の情報を共有しながら日々のケアを振り返り、拘束や虐待のないケアの確認をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルに基づき、施設内のリスクマネージメント委員会によるミニ研修などを行い、具体的にどんな行為が虐待につながるのか等、知識の習得に努め実践している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当グループホームで成年後見制度が必要なケースは今までなかったが、制度の周知はグループホーム会議内で資料配布したり、ホーム内掲示などを行い、意識向上を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけて、納得頂けるまで丁寧な説明を行い、不明点が生じないように」心掛けている。契約時には事業所の運営理念やユニット内の様子、サービス対応可能範囲についてなど説明し見学もして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活のご利用者様の言動から様々な思いや考えをくみ取り利用者様本位のケアを心がけている。またご家族様には何でも言って頂ける雰囲気作りに努め、要望・意見はユニット会議などで話し合いケアや施設運営に反映させている。	家族面会時に積極的に声かけを行い、些細なことでも話をしてもらえる関係づくりに努めている。利用者・家族の普段の会話の中から出た意見には、申し送りや会議などで検討し対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はM勤4ミーティングや日常勤務の中で職員の意見を聞き、日頃からコミュニケーションを図るよう心掛けて意見が伝わりやすい環境作りに努めている。	管理者は職員の出勤時に声をかけ、表情など気になることがあれば、直接又は相手を代えて話を聞いている。ユニット会議、委員会で出た意見や要望には、必ず答えを出して出来る限り対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各スタッフの得意分野（料理、お菓子作り、インテリア、園芸など）を活かせる職場環境を整え、ご利用者とともに楽しみながらやりがいと向上心を持って業務ができるようスタッフ・個々のペースに任せ、勤務調整などを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	処遇改善加算の取り組みとして、定期的に施設内研修を行い、職員の介護技術向上・知識習得の機会を設けている。他にも施設内研修、委員会内研修などでも勉強する機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームケアマネージャー情報交換会への参加を通した交流や、近隣グループホーム施設との連携を図っており、継続して近隣の複数事業所が連携して交流・勉強会を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活状況を把握し、本人との信頼関係が築ける様本人の思い・希望・不安をしっかり受け止め、ご家族様とも連携を取りながら、常にご利用者の居心地の良い生活の場となるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのご家族の苦労、困っていた事、不安だった事、要望などに事業所がどのような対応ができるのかを事前に話し合い、ご家族を理解しながら密接な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面談の話し合いで、ご本人やご家族が今必要としている支援を見極め、施設相談員・医師・看護師との連携を取り、困難な問題に対しても速やかに対応が出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは利用者と共に生活する者としてお互い支え合い、思い合える関係作りに努めている。人生の先輩でもある利用者様から知恵や技を教えて頂くことも多く、意見を生かしながらお互いに感謝する関係が築けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には面会時や電話にて日常の様子を報告し、ご家族の意見や思いを十分に受け止め、共に同じ思いで支え合えるよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状にご利用者様や職員がひとこと言葉を付け加えたり、了解を得た上で近況の写真を掲載している。またお孫様の結婚式に出席されたり、自宅への外出される際の援助も行っている。	アセスメントや併設事業所の利用者など知り合いの人から情報を得て、馴染みの人や場所の把握をしている。併設事業所の馴染みの利用者との交流支援、外食・自宅へ外出の際の送迎支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格、利用者様同士の相性・関係を把握し、その日の状態や気分を注意深く観察しながら、無理強いはしず、共に暮らす仲間として穏やかな関係が築けるよう工夫している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られてもお互い行き来したり、行事にお誘いするなど関係継続に努めている。またご本人の情報提供を行い、新しい事業所での生活に役立ててもらえるよう支援している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	まずはご利用者様が自分の思いを言いやすい環境作りを心掛けている。コミュニケーションの場を多く取りながらその思いを理解し、申し送り時に情報共有したり、会議ではその人に合った支援方法を検討している。	利用者の話を聞くことに心がけ、日常生活の中で話された思いを聞き漏らさないようにしている。困難な利用者には、表情や仕草から思いを把握している。ユニット会議で利用者に寄り添える支援方法を話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サマリーやアセスメント表などからスタッフ全員で情報を共有して把握に努めている。またご本人・家族様との会話から必要情報を見い出して暮らしやすい環境に近づけるよう努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自分のペースで安心して過ごして頂ける環境作りを心掛けている。また出来る事、得意な事を把握し、生かしていけるケアを検討している。状態変化があればスタッフ間で情報共有し、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様やご家族の意向をもとにアセスメントし、会議での話し合いで職員の意見を取り入れながら介護計画を作成している。また状態変化などを毎月評価表に記録し、それをもとにプラン見直しを行っている。	利用者・家族の希望とアセスメントを基にユニット会議で話し合い、介護計画を作成している。医師の意見は看護師より確認をしている。変化があった時は、その都度見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	アイパットの個別ケア記録に毎日の様子やケアの実践・結果・気づきなどを入力し職員全員が目を通すことで、利用者様の状態を継続的に把握している。記録をもとに次のケアへつなげていけるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様ご家族の要望で、家族に代わり受診、自宅への送迎など柔軟な支援を行っている。又ホーム内で解決できない問題については、併設施設内で相談・話し合いを行いホーム内の枠を超えた支援ができるように努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営会議の実施、地域の老人会・子供会・少年団などの活動に地域交流室を開放し、地域とのつながりを大切にしている。また当施設ホームページにて活動報告を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院以外のかかりつけ医受診は、本人の健康状態を口頭や文面でお伝えした上で、ご家族同行での支援としている。受診結果は看護師が家族から報告を聞き、職員へ申し送りを行い連携している。	かかりつけ医の受診は、看護師が家族に利用者の状態を口頭か文書で伝え、家族が付き添っている。家族から受診報告を受け、職員間で情報を共有している。緊急時は家族と連絡を取り、職員が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々利用者様の状態を観察し、訴えにも傾聴しながら、異常があればすぐに看護師に報告を行っている。夜間における連絡体制もできており、迅速に看護や受信を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院までの体調変化など情報提供を詳細に行い入院時には病院見舞いなどの本人支援に加え、本人家族との話し合い・病院との連携を図りながら、より良い治療を行い、早期退院に向けた支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人家族の希望を伺いながら医師・看護師・相談員・リーダーが話し合い、出来る限り希望に沿った支援ができるよう努めている。職員はターミナルケア研修を受けているが、本人の苦痛や希望、ケアの限界などを考慮しながら病院や併設施設での支援に切り替えている。	入居時に事業所の方針を説明して、意向を確認している。状態変化の都度、利用者・家族の意向を再確認して、医師・看護師・介護長と支援の方針を話し合っている。希望にて病院や併設施設への支援に移行することもあるが、事業所も看取りの支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・事故発生時のマニュアルを全職員が周知し、迅速な行動がとれるよう職員同士のコミュニケーションを密にしている。また看護師や外部の講師から器具の使い方や応急手当の研修を受け、技術習得を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設施設と合同で夜間想定を含む年2回の消火器・避難訓練を行っている。また災害発生に備えた食料・飲料水などを備蓄し、市の避難指定所にもなっている。	夜間想定を含む消火・避難訓練を併設施設と合同で行っている。食料・飲料水などの備蓄をし、市の避難指定所にもなっている。併設施設との連携・協力体制があるため、地域との協力体制は積極的に行っていない。	地域との連携・協力を働きかけ、いざという時には協力体制がとれるよう期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの思いを大切にし、尊厳・誇りを損なわない言葉がけ・対応を行っている。入浴・排泄・更衣などにおいては、プライバシーを尊重し環境整備を行い、配慮している。	大きな声を出さないような言葉かけや対応に心がけている。申し送りは内容に合わせ、利用者に聞こえないよう、場所・時間を変えて行っている。個人記録も利用者・面会者に見えないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者とのコミュニケーション時間を多く持つことで本人の思いや興味のあることなど、希望に沿った支援を行っている。また自己決定できる状況を作り、生き生きと生活して頂ける環境づくりにスタッフ全員で努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者一人ひとりの体調を十分に理解し、日々の表情やしぐさを見守りながら、希望を聞いたり興味が湧く事柄にお誘いするなど、無理なく思い思いに過ごして頂けるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入所前から使用のスキンケアグッズを継続利用してもらい、出来る限り着る服は自己選択を促している。メイクアップやネイルアートのボランティアの方に整容して頂く機会を持ち、生活感にメリハリを持って頂けるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	併結施設で調理・配食されるが、週3回ほどは昼食作りをユニットで行っている。一緒に調理を手伝って頂いたり、台拭きや配膳をして頂いている。またベランダに野菜を植えて収穫したものを一品に加えたり、干し柿や梅ジュースを一緒に作り、食の楽しみの提供を行っている。	食事は併設施設で調理・配食されるが、利用者の好みのメニューや旬の野菜を取り入れて、週3回昼食を事業所で作っている。台拭きなど利用者のできることを一緒に行っている。お好み焼きを目の前で焼いたり、話をしながら一緒に食事をしたりして食事が楽しみなものになるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事・水分摂取量を記録し、一人ひとりの健康状態や変化の把握に努めている。また看護師や管理栄養士の助言を貰いながら、必要に応じて食事・水分量の調整、栄養補助食品や自助具の利用、介助方法の工夫などを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア専用の歯ブラシ・ティッシュを活用しながら一人ひとりの口腔内の状態に合わせた介助を行っている。また、細部の口腔ケアについては、本人家族と相談したうえで定期往診でみえる歯科の先生にお願いし、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りおむつの使用を必要最小限にし、個々のパターンや兆候に合わせてトイレ誘導を行っている。またズボンの上げ下げなど、できるところはやって頂けるよう見守るなど自立に向けた支援を行っている。	個々の排泄パターンや様子からトイレへ誘導している。夜間も出来る限りトイレでの排泄を支援している。トイレの外で待ったり、できることは見守りをして自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	施設内外の散歩を行い、体を動かす機会を作っている。また、便秘傾向のある利用者様には、バナナ・ヨーグルト・牛乳・青汁などを朝食やおやつに多く取り入れ、自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に火・木・土週3回昼間の入浴としており、体調・希望・外出に合わせて他の時間・曜日の入浴を行っている。季節に合わせ柚子湯など好きな音楽をかけながら個人の希望に合わせてゆったりと入浴を楽しんで頂く工夫をしている。	好みのシャンプーを用意したり、好きな音楽を流したりして個々の希望にそって入浴を楽しめるよう工夫をしている。入浴を拒む利用者には時間を変えたり、誘い方を工夫したりして快く入浴してもらえるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	随所にひと休みできるソファをリビングに配置し、リラックスして過ごして頂いている。夜間不眠傾向のある方にはテレビ・CD視聴・話し相手などその人に合わせて環境整備を行い、安心して自然な入眠ができるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報ファイルにて全職員がいつでも薬の内容を把握できるようにしている。また毎日の心身の状況変化を観察・記録し、看護師・家族と連携をとりながら服薬支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケを楽しむ方、職員と一緒に洗濯たたみ・新聞整理などの手伝いをして下さる方、料理、生け花などご利用者様が個別に楽しみや役割を持てるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の気分転換につながるよう、季節に合わせた花見、花火、飲食店などの外出支援を行っている。また特養の利用者様と一緒に下呂高山へ一泊旅行に出かけたり、なばなの里に外出し、楽しんで頂いている。	希望にそって散歩・買い物や外食に出かけている。季節に合わせ、弁当を持って花見などに出かけている。市から福祉バスを借りて車椅子の利用者も一緒に遠出ができるように支援している。併設施設の一泊旅行の行事に参加する利用者もいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と話し合いながら、自己管理の可能な方には財布を手元に持って頂いている。また利用者の希望や力に応じて、買い物時は本人がお金を所持して支払いする機会を持てるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話や手紙のやりとりができるよう支援している。年賀状作成は写真入りを手書きで送るなどして、ご家族や大切な人との触れ合いを大切にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	随所に生け花を飾り、ベランダには野菜・花のプランターを置くなど生活感・季節感のある空間づくりに努めている。また玄関にポストや下駄箱を、居間には仏壇やソファを置き、馴染みのある家庭的な雰囲気作りを心掛けている。	玄関にはポスト・下駄箱、居間には仏壇を置き家庭的な雰囲気作りをしている。ベランダでは花や野菜を育て季節が感じられるようにしている。ソファを各所に配置して、ゆったり過ごせるよう工夫している。時間を決め換気も行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の性格やそれぞれの相性、希望などを考慮して席や机の配置を工夫している。また壁の随所や窓際にソファを置くなどして、思い思いの場所で居心地良く過ごして頂けるよう環境整備を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはTV・写真・ぬいぐるみ・本・小物類など在宅時から使用していた馴染みのあるものを持参してもらっている。転倒など安全面にも配慮した設置を行い、本人が安心して居心地良く過ごして頂ける様にしている。	和室希望の利用者には畳対応をしている。テレビ、チェスト、仏壇を持ち込み、写真や好みの小物を飾ったり、ラグを敷くなど、本人にとって馴染みがあり居心地良く過ごせる居室にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	気付きを促す紙を貼ったり、低床にして転倒を防ぐなど、ハード面だけに頼らず日々の安全に心がけ本人の状況をみながら環境整備・自立支援を行っている。		